

人生を拓く

(29)

高橋 房 子さん(83) 東町2丁目

父正雄さん(昭和63年、81歳で没)、母ハルエさん(同62年、78歳で没)夫婦の8人兄弟の一番上の長女として岩見沢市内で生まれました。

父正雄さんは、戦前ホクレンで牛乳関係の仕事をしていたそうです。1940(昭和15)年、道東の酪農地帯、西春別尋常小学校(現根室管内別海町)に入学。「これからは学問が必要だ」と終戦とともに教育機会に恵まれた岩見沢に戻って旧岩見沢市立女子高等学校に進学し、同校を改組した北海道岩見沢東高等学校の第一期卒業生でした(昭和29年)。

結婚は1954(昭和29)年10月10日。22歳で深川に嫁ぎました。「前の月に青函連絡船で千人以上が亡くなった台風があったね。実家が台風にやられていたらお嫁に行けなかった」。2週間前に起きた洞爺丸台風とともに、結婚式当時の記憶は鮮烈な思い出。

「岩見沢駅から深川まで振袖姿の角隠しで列車に乗りました。駅のホームは長いし、早く歩けなくて、列車が何分間も待つてくれたの。そのまま神社の社務所に行つて、早朝から夜まで結婚式、披露宴と続いてね。その間振袖が乱れないよう



につて、紐でぎゅうぎゅう縛られてつらかった」。
 待望の長女は生まれつき心臓弁膜症で生後100日の短命に。その後2人の男の子に恵まれ、穏やかな暮らしが続きまし

た。
 しかし48歳で離婚を経験し、一転シングルマザーの生活に。2人の息子はすでに21歳、15歳になっていたため、手のかかる時期は過ぎていたとはいえ、暮らしを支えるため、選ぶ暇もなくさまざまな仕事に。その長男は現在58歳、二男は52歳となり、それぞれ旭川、札幌で家庭を持つて3人の孫にも恵まれました。

第2の人生の出発は、「子どもたちのためにパンやお菓子を手作りしてきた」と大好きだった料理の腕が生きました。

51歳から食堂、個人宅への訪問給仕、建設現場の住み込みまかない仕事など、その腕前を生かす仕事に。2000(平成12)年に東川へ移り住み、4年前79歳の時まで現役で働いてきました。

仕事始めを機に書きためてきた料理ノートは、大学ノートに130冊にもなつて大切な宝もの。趣味の書道の腕を生かして続けた刻字作品も見事です。

俳句

| | |
|------------------|---------|
| 新涼やバス停ひとつ前で降る | 若田 久 |
| 朝刊の少し冷たき今朝の秋 | 高瀬 潤 |
| 月上る草ぼうぼうの庭照らし | 石澤 清宏 |
| 山の端をひとふで書きに月の夜 | 三島 智 |
| 邯鄲の独唱ひんやりと風が来る | 若田 郁 |
| もう秋か返して欲しい俺の夏 | 本田 咲 |
| ジヨギングでコンビニまでの月の道 | 佐々木 りえ |
| 月あかり美人に見せる魔術かな | 山内 みゆ |
| ありのままほらほら月もまんまるい | 小林 ろぼ |
| 秋晴や句の道三十年感謝せり | 高橋 公花 |
| 星月夜一家総出の夜業かな | 杉山 ひろのり |
| 盆参りさらり胃ガンと告白す | 保科 なほ |
| 念仏をとなえてハエを打ちにけり | 徳光 吐苦 |
| 厨から三日月見ている見られてる | 杉山 りつ |
| 幸せは満ち欠けてゆく秋の月 | こばやし 星来 |

